

1 単元名 ことばをつかう ~しらべてかく 「わたしのうまれた日」

## 2 授業構成

### (1) 教師と教材

本単元は、学習指導要領「B書くこと」の

ア 相手や目的を考えながら、書くこと。

イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。

に位置づけられている。本校国語科では、児童の意欲を喚起する学習材の工夫・開発を行い、児童の「ことば」に対する感性を磨き、深く追求する力を育てていくことに取り組んでいる。作文を書くためには、「取材力」「構成力」「記述力」「推敲力」「書字力」「語彙力」等のことばを使う力、すなわち言語能力を最大限に活用することが必要である。また作文は、自分の考えや思い、想像したことを文字を通して伝えるという場であり、読む者によりよく伝えるためには適したことばを使いこなす感性と表現力が問われる場であるとも言える。従って、作文を書く力というのは言語能力の総決算であり、作文を書くことは、言語能力を高めるために最も適した活動であると考えられる。

児童は、これまでの学習の中で調べたことをまとめて発表したり、自分の体験を短い言葉で書いたりすることを体験してきた。そこで、さらに書く力を高め、ある程度まとまった表現で長く文章を書くことにチャレンジするため、自分の生まれた日のことを調べて書く単元を設定した。書くことを中心とした学習で大切なのは、児童が書くテーマについての意欲を持てることと、目的意識や必要性を感じられる学習を展開することである。

本時の学習では、前時までに書いた作文を読み返し、さらに様子がよくわかるようにことばを付け加えたり自分の思いを付け加えたりして書く活動を中心に授業を構成する。その際、どのようなことをどのように書けば書き手の思いが読む人に伝わるのかという視点で活動を考え、授業を構成していく。

### (2) 子どもと教師

これまでに児童は、「てがみをかこう」や「みんなにしらせよう」で簡単な文を書いたり、「ことばあそびうたをつくろう」で自分で考えた文を友達と紹介し合ったりした。さらに、「いろいろなふね」で、書かれた事柄を正しく読み取ったあと、自分の好きな乗り物について調べ、教科書の文型をもとに、「のりものずかん」を完成させた。また、「よく見てかこうわたしのはっけん」で、身の回りの生き物の様子をよく見て、今までより少し長く書くことも経験した。文字を書き慣れていない1年生の場合、文字を書くこと自体に抵抗をもつ児童も少なくない。そこで、字を書く練習をはじめ、朝自習や国語の学習中の視写、連絡帳の聴写、自学ノートなどを取り入れ、文字に書き慣れさせ、書くことへの抵抗感を減らせるように様々な場面で書く活動を取り入れるようにしてきた。さらに、国語科の学習だけでなく、他教科・領域と関連づけた学習を行い、書く機会を多く取

るようにした。生活科の「わたし・かぞく」の単元で、家族への聞き取りや自分の名前の由来について書かれた手紙に対するお礼の手紙など、書く力を高めるだけでなく書くことを通して人とのかわりを持つことの喜びを感じられるようにしてきた。

本単元の学習においては、家族の人から取材した事柄を整理して作文にまとめた後に友達と作文を読み合い、発表し合うことにより、他者を意識した文の書き方を学習していきたい。また、文章表現力を養うだけでなく、作文発表を聞き合った後の質問や感想を出し合うという「かかわり合い」を大切にしたい。

本時の学習では、家の人へのインタビューの中で心に残った言葉や印象的な事項をもとに書いた作文に、より読み手に自分の思いが伝わる文を付け加えさせたい。インタビューした項目に対する感想などを問いかけることにより、児童が作文に付け加える言葉を見つけ、作文に書けるようにしたい。また、友達の作文を聞き合うことによりお互いの工夫に気付くようにしたい。

### (3) 子どもと教材

本学級の児童は、ひらがな、かたかな、漢字を学習し、文章を書くことにもだんだん慣れてきた。書くことについては、授業の中だけでなく、連絡帳の一言日記、あのね帳、自学ノート、友達や家族への手紙、一枚詩集など、生活の中でもさまざまな場面を通して書く活動を設定してきた。その結果、長い日記を書くことや詩を作ること、絵本作りなど楽しみながら書く活動に取り組む児童も出てきた。しかし、長く書くことはできても、内容は、思いつきで頭に浮かんだことをどんどん書き足していき、順序よく事柄を整理して書くことや、気持ちや考え、会話を入れて書くことは十分にはできていない。また、学級ほとんどの児童が国語が「大好き」・「好き」であるが、書くことに苦手意識を強く持つ児童は多くあり、書く力には個人差が大きい。国語が嫌いな5人のうち4人は、作文を苦手と答えている。主な理由としては「何を書いて良いのかわからない」「書き始めたら書けるが、書くまでに頭の中で整理できない」「書きたいことはあるがどう書いてよいのかわからない」ことを挙げている。このように、思いがたくさんあっても、その思いが整理されておらず、内容的には事実の羅列をだらだらと書いていたり、思いつくままに順序がばらばらのまま書いてしまったりしてしまうことが多く見られる。気持ちを書くことについても、「たのしかったです」「うれしかったです」と一言でまとめてしまうこともよく見られる。

このような児童にとって、自分の生まれた日について調べて書くことということの良さは、大きく分けて三つある。まず一つ目は、自分の生まれた日のことを聞くことが児童にとって大変興味深いことであるので、調べることに興味・意欲を持ち続けられること。二つ目は、自分のことでありながら自分は知らず、家族の人に取材しないと書けない、調べないと書けないということがあげられる。児童は、調べたことをもとに作文を書く体験を通して、その方法を実感的に学ぶことができる。三つ目としては、児童の「ことば」に対する感性を磨き、「生きたことばの働き」を育てていくために、人間としての成長につながる価値あるものをそれぞれの発達段階に応じて教材開発していくという面から見て、自己の誕生というまさに自分の命に向き合う学習は、児童の今後の成長にとって意義あるものであると考える。

この単元の学習を通して、家族から聞き取ったことを整理して書き、それを友達と伝え合うことの喜びや楽しさを感じさせると同時に、どのように文章を書けば友達にうまく伝わるようになるかを1年生なりに考えさせたい。

そこで、本時の学習では、自分の生まれた日について調べたことや書いたことへの感想や思い、家族への感謝の気持ちを込めて作文を書くというねらいを達成するため、本時における問題をつぎのように設定した。

## じぶんのさく文をよみかえし、おもったことをつけくわえてかこう。

上記の問題に対して児童は次のような活動を行うものと予想される。A 今までに書いた文章に、詳しくすることば、自分の思い、家族への感謝などを進んで書き加えようとしている。B 今までに書いた文章に、自分の思いを書き加えようとしている。C 友達の発表を参考にして今までに書いた文章に、自分の思いを書き加えようとする。

本時の児童の活動に対する支援としては、次のようである。Aでは、書き上げた児童には、自分の書いた文章を見直し、表記上の間違いがないか確認するように見直しをさせ、次時の清書へとつなげていきたい。さらに、表現の工夫をしてみるように促したい。Bでは、「うれしかった」「たのしかった」で終わらせるのではなく、別の表現で自分の気持ちを表現して書いていくように助言したい。Cでは、何を書いて良いのかわからない児童のために、友達の発表も参考にしながら書いても良いことを伝え、書き方のヒントになるように自分なりの工夫ができた児童の書き出し文を紹介したい。自分なりの工夫をしていたり思いや考えを入れたりしている作文を取り上げて紹介することで、よりよい作文に仕上げようという意欲を湧かせ、自分の気持ちを文字で表現するという文章表現力を高めていきたい。

### 3 単元の目標

- ・自分の生まれた日のことを友達に伝えるという目的を持ち、書くために必要な事柄を取材し、まとめ、取材したことを整理し、作文を書くことができる。
- ・自分の思ったことや考えたことを入れて作文を書くことができる。
- ・発表したり感想を話し合ったりして、自分や友達の作文の良さを見つけることができる。

### 4 学習計画（全6時間）

第1次 自分の生まれた日について作文で紹介することを知り、学習計画を立てる。（1時間）

第2次 調べたい事柄を決め、必要な情報を集める準備をする。（1時間）

取材したことをもとに、生まれた日のことについて書く。（1時間）

自分の思いを入れた文を書き加える。（1時間）・・・本時

書いた文章を推敲して清書をする。（1時間）

第3次 友達の作文を読み合い、感想を伝え合う。（1時間）

### 5 本時について

#### （1）本時の目標

書き手の思いが伝わる作文の良さに気付くことができる。

自分の思いを作文に書き加えることができる。

#### （2）本時の期待される児童の活動

A 今までに書いた文章に、感想、自分の思い、家族への感謝などを進んで書き加えようとしている。

B 今までに書いた文章に、詳しくすることばや自分の思いを書き加えようとしている。

C 友達の発表を参考にして、今までに書いた文章に、自分の思いを書き加えようとする。

(3) 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
<p>1 本時の学習を知る。</p> <p>2 生まれた日のことについて書いた教師の作文例をもとに、どのような工夫がしてあるか、友達（隣同士・みんな）と話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・長く書いている。</li><li>・詳しく書いている。</li><li>・感想が書いてある。</li><li>・思ったことが書いてある。</li></ul>	<p>前時の学習を想起し、本時の学習に対する興味を持たせる。</p> <p>作文例を掲示し、声に出して読ませることにより、内容をしっかり確認するように指示する。最後の部分だけ変えた教師の作文について隣同士で話し合わせ、二つの作文の違いについて話し合わせる。</p> <p>みんなで話し合うことで、自分の作文も工夫してみよう、付け加えて書いてみようという意欲を持たせたい。</p>
<b>じぶんのさく文をよみかえし、おもったことをつけくわえてかこう。</b>	
<p>3 自分の思いを作文に書き加える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今までに書いた文章に、感想、自分の思い、家族への感謝などを進んで書き加えようとしている。</li><li>・今までに書いた文章に、自分の思いを書き加えようとしている。</li><li>・友達の発表を参考にして今までに書いた文章に、自分の思いを書き加えようとする。</li></ul> <p>4 今日の学習をふり返る。</p>	<p>早くできた児童には、書いた文章を読み返し、表記上の間違いがないか確認するようにさせたい。</p> <p>「うれしかったです。」「たのしかったです。」と、短い言葉で書いている児童には、どのようにうれしかったのか、どうしてうれしかったかななどを詳しく書くようにするとよいことを伝える。</p> <p>書くのが苦手な児童が書きやすいように、ヒントカードを出し、それを見ながら書くように伝える。</p> <p>自分なりの工夫ができた児童の作文を紹介することにより、書けずに悩んでいる児童の助けとしたい。</p> <p>本時の学習をふり返り、次時のめあてを持たせ、意欲的な学習へとつなげたい。</p>